

2024年度 第2四半期 決算説明会 事業概況

2024年11月12日

日揮ホールディングス株式会社
代表取締役社長COO
石塚 忠



目次

◆ 総合エンジニアリング事業

- ◆ マーケット環境の現況および見通し
- ◆ 上半期の受注実績と下半期の注力案件
- ◆ 主要な遂行中プロジェクトの状況
- ◆ EPC事業の収益安定化に向けた取り組み状況
- ◆ TOPICS - バイオものづくり事業の推進

◆ 機能材製造事業

- ◆ 上半期の実績とマーケット環境の見通し



総合エンジニアリング事業

Enhancing planetary health

マーケット環境の現況および見通し

海外

【トランジションエネルギー】

- 脱炭素社会への現実的な移行に向け、**天然ガス（LNGを含む）**の重要性は共通認識となりつつあり、**需要は中長期的に継続する見通し**。顧客は**E-Drive（電動化）**や**CCS**等の環境対策を講じながら設備投資計画を推進。

【サステナブル、産業インフラほか】

- 各国の政策や支援が後押しし、**水素、アンモニア、SAF、CCS、合成メタン（e-methane）**等を中心に計画検討が継続。
- **半導体関連分野**や**データセンター**等の設備投資計画が東南アジアなどを中心に着実に進展。

金利上昇や建設費用等の増加により顧客の初期投資費用は高止まり、一部の顧客は投資決定のタイミングを慎重に判断。

国内

- **水素やSAF、資源循環**などのサステナブル分野において、顧客は政府補助金を活用し計画。一方、投資費用の増加等を受け**補助金の交付に時間を要する**状況は継続しており、投資計画が後ろ倒し傾向にある。
- 高薬理活性製剤をはじめとする**バイオ医薬品**など、ニューモダリティへの設備投資が継続。
- **食品関連**の設備投資も計画検討が進展。

上半期の受注実績と下半期の注力案件

上半期連結受注高：約**3,700**億円
(2024年度受注目標合計：9,700億円)

	海外	国内
2024年度受注目標	8,400億円	1,300億円
上半期受注実績	約3,300億円	約400億円
上半期 主な受注案件	- UAE LNG - モザンビーク LNG (FEED) - マレーシア グリーン水素製造 (FEED) - チェンジオーダー 等	- 保全業務 (複数) - チェンジオーダー 等
下半期 主な注力案件	- インドネシア タング UCC (CCUS※) - アフリカ LNG 等 ※ Carbon Capture, Utilization and Storage	- 保全業務 (複数) - 医薬品製造工場 (複数) - 病院 (複数) - 食品関連工場 - SAF (FEED) (複数) 等

主要な遂行中プロジェクトの状況

海外

LNGカナダ

商業運転開始：2025年半ばまで

進捗：

設計、調達ほぼ完了。第1系列のGas-inに成功し、残工事と試運転作業に注力。



イラク バスラ製油所

完工年：2025年

進捗：

設計は完了。主要機器も現場に到着し、据え付けもほぼ完了。現場工事は最盛期を超えた。



国内

静岡 合成原薬製造棟

完工年：2024年

進捗：

製造設備、建築付帯設備の試運転・検証を完了し、11月末に引き渡し完了。



米国 エチレン増設

完工年：非公表

進捗：

設計は完了。調達も計画通り進んでおり、主要機器の大半が現場に到着。現場では機器の据え付けや鉄骨・配管工事が始まっており、今後も状況は注視。



サウジアラビア 原油ガス分離設備新設

完工年：2026年

進捗：

設計作業は完了。建設工事のピークに向け、進捗状況を注視。現場は鉄骨工事、機器の据え付けに加え、配管工事が開始されている。

EPC事業の収益安定化に向けた取り組み状況

課題①

日揮グローバル本社の適正人員配置による設計業務の遂行と品質確保

対応

人財リソースマネジメントの強化

- 「利益確保（足元、中期）と実現性が高い案件」、「リソース確保」、「将来の糧」を判断基準に選別受注の徹底を継続
- リソースは上記の案件に優先配分
- 上記に合わせて本年7月1日付で日揮グローバルの組織を改定

課題②

海外グループ会社の遂行力に応じたプロジェクトへの取り組み

対応

リージョナル経営体制は一旦ブレーキをかけ、海外グループ会社の遂行力に合わせた役割を再定義

- ローカルEPC案件は、一部拠点に限定し、かつ日揮グローバルの管理・監督のもと技術・価格面で差別化可能な案件を厳選
- 上記方針のもと、インドネシアとサウジアラビア子会社は、ローカルEPC案件の受注・遂行を縮小し、現在遂行中の案件の完工に集中
- アジア太平洋地域における営業・プロジェクト遂行の統括機能は、日揮グローバルが担う
- 海外グループ各社のEPC案件を現地でサポートしてきたリードエンジニア（数十名）を日揮グローバルに戻し設計リソースを確保、ひいては設計品質の確保に繋げていく

TOPICS - バイオものづくり事業の推進

統合型バイオフィアウンドリ®



微生物開発からスケールアップ・生産プロセス開発まで、
一気通貫でソリューションを提供するプラットフォーム

これまで十数年必要であった**商業化までの期間を1/10以下に短縮**させ、時間とコストの大幅削減を目指す。

世界初のガス発酵による バイオものづくりの研究開発拠点



本年8月に第1研究棟を着工

2024

2025

2030~

第2・第3研究棟の建設も計画中

2025年12月 第1研究棟竣工予定

統合型バイオフィアウンドリ®を構築し、
様々な産業分野にバイオものづくりの
普及を強力に推進

バイオものづくりの
プラットフォームへ
【ビジネスモデルの多角化】
(ライセンス事業)

機能材製造事業



Enhancing planetary health

上半期の実績とマーケット環境の見通し

上半期実績

売上高

上半期実績

約**265**億円

2024年度見通し

520億円

マーケット環境/
下半期の方針

触媒・ファインケミカル

日揮触媒化成（C&C）

<マーケット環境>

- 燃料需要が回復に向かうなか、触媒の交換需要の増加を背景に、**FCC触媒等の需要は国内外で概ね堅調**に推移（上期は一部製品で期ズレ）。
- 半導体、生活関連市場が回復、需要増の傾向**にあり、シリカゾルを中心とする**ファインケミカル製品全般で復調**。

<下期の方針>

- 触媒分野は、**海外顧客への拡販、低・脱炭素分野向け製品の展開**を推進。
- ファインケミカル分野は、**用途拡大**等による収益源の多角化を加速。

ファインセラミックス

日本ファインセラミックス（JFC）

<マーケット環境>

- 半導体製造装置市場は底を打ち、**回復傾向**。
- HV・PHVなど向け**高熱伝導窒化ケイ素基板**は**品質の高さも評価され、需要は引き続き拡大**。

<下期の方針>

- 半導体製造装置関連部品については2024年度下期以降の事業環境の回復を見据え、**生産体制・計画見直し**を継続。
- 高熱伝導窒化ケイ素基板は、**生産能力を増強中**。

*HV：ハイブリッド車、PHV：プラグインハイブリッド車

将来の見通しに関するご注意事項

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞

日揮ホールディングス株式会社
戦略企画オフィス 経営企画ユニット
コーポレートコミュニケーショングループ
Tel:045-682-8026 Fax:045-682-1112
E-mail: ir@jgc.com